「新聞記者の仕事とは」（読売新聞姫路支局　早川保夫様）の講演を聞いて

あまり新聞は読まないけど、新聞には多くの人が携わっていることがわかった。新聞には大きなかがあることもわかった。例えば、バス停の名前とかえてしまうなどの、小さいかもしれないけど、小さなことに気をつけないと見つけられないと思うので、僕にはむずかしいと感じる。機会があれば、英語のも見たいし、普通のも読んでおこうと思う。

新聞記者の仕事とは」（読売新聞姫路支局　早川保夫様）の講演を聞いて

新聞記者の仕事を具体的に知ることができて、新聞記者という仕事に就くのもおもしろそうだと思った。大変だと思うけど、様々なことを体験でき知ることができるのでやりがいがあると思った。新聞を読むことで様々な情報、出来事を知れて新たな世界が広がると思った。家で新聞をとっているので読んでみようと思いました。

新聞記者の仕事とは」（読売新聞姫路支局　早川保夫様）の講演を聞いて

実体験に基づいて話される、記者の仕事内容ややりがいなど、普段あまりなじみのない職業について、聞くことができて参考になりました。今日、この場でしか聞けないような話も聞くことができて、記者という職業の魅力に気づくことができました。

「新聞記者の仕事とは」（読売新聞姫路支局　早川保夫様）の講演を聞いて

私の家では新聞を取っていないので普段じっくりと新聞を読む機会がないのですが、講演でのお話を聞いて新聞がどのように作られているのかを知り、興味を持つことができました。新聞は記者の方々の地道な努力で作られているので安心してそのなかに書かれてある情報を信じることができるとあらためて感じることができました。今の社会ではインターネットで簡単にたくさんの情報を得ることができるけれど、昔からの技術や経験が積み重ねられて作られている新聞をもっと読んでいこうと思いました。今日の講演は、

「新聞記者の仕事とは」（読売新聞姫路支局　早川保夫様）の講演を聞いて

新聞というものは知っているけれど、実際に読むこともないので、わからないところが多かったのですが、今日の講演を聞いて新聞一つ作るのも大変だなと思いました。まず、話を聞いていて一番印象的だったのは、入社した始めの頃は休日でも呼び出されていた、というところや2日連続でも取材していたということです。こんなにも新聞記者は大変なのだなと初めて知りました。このように作られている新聞を読まないのは逆に損だなと思いました。

新聞記者の仕事とは」（読売新聞姫路支局　早川保夫様）の講演を聞いて

とても大変な仕事だけど、その分とてもやりがいのある仕事なんだなと思いました。わざわざその場所に出向いて、何日も取材するという努力の積み重ねで新聞はできているんだと思いました。普通では体験できないことが体験できるし、全国の人々に自分の成果を見てもらうことができる良い仕事なんだなと思いました。毎日あの新聞一冊にたくさんの記者さんの想いがつまっていて、想像もできないような作業をしているんだなと思いました。これからは少しでも新聞を気にかけたいなと思いました。

新聞記者の仕事とは」（読売新聞姫路支局　早川保夫様）の講演を聞いて

改めて記者の方はすごいなと思いました。寝る間をおしんでまで取材したり記事をかいたりなど私たちがはかりしれないほどハードな仕事のように感じました。新聞の影響で社会を変えることができるということには驚きました。新聞にもそれだけの影響力がある、ということを今まで知らなかったです。記者の方はもっといろんなことに興味や関心があり、それらに対していろんな疑問を持っているからこそ取材をして記事にすることができるのかなと思いました。

「新聞記者の仕事とは」（読売新聞姫路支局　早川保夫様）の講演を聞いて

これまでは新聞とは、かたくて難しいものだと思っていましたが、記者の人たちがたくさん時間をかけてつくっていたんだと知ることで、少しは読んでみようかなと思いました。

新聞を読むことで、国語力も上がりそうなので、自分からすすんで読んでみようと思いました。

「新聞記者の仕事とは」（読売新聞姫路支局　早川保夫様）の講演を聞いて

一つの新聞に、何千人ものの人が関わっているという話が印象的でした。海外や全国各地に派遣された記者さんたちの苦労や努力がつみ重なって一つの新聞ができあがっていると思うとすごいなと感じました。私の家では新聞をとっておらず、また私はテレビをあまり見ないので世の中で起こっていることにうといところがあるのですが、今日の話で、どんな形であれ世の中で起こっていることを知るのは大切だなと思いました。今日は本当にありがとうございました。

新聞記者の仕事とは」（読売新聞姫路支局　早川保夫様）の講演を聞いて

今日の話を聞いて、情報のたったしつい、たきく物事が変わるんだと思い、マスメディアの大切さを改めて感じることが出来ました。

新聞記者の仕事とは」（読売新聞姫路支局　早川保夫様）の講演を聞いて

小学校の遠足（バス旅行）みたいな行事で1度読売新聞社に訪れたことがあり、その時も学ぶことはたくさんあったのですが、今回の講演を聞いて、新聞記者の方々は新聞を読むだけの私たちが目に見えない所で様々な努力をしており、近況を読者に報告するために寝る時間を削ってまで取材したりしているんだな、ととても感じました。また、速報がきた場合、30分～1時間あたりで新聞をつくる、というのを聞き、とてもびっくりしました。新聞記者についても、と知りたいなと思いました。

「新聞記者の仕事とは」（読売新聞姫路支局　早川保夫様）の講演を聞いて

新聞はスポーツ紙ばしか熱味がなくそれしか見ていなかったけどたまには別の面も見てみようと思いました。

新聞社にいろんな局があるのは知っていたけれど、大阪なら大阪周辺のことだけを取材していると思っていたけれどリモートやネットワークを使って海外に行かずに海外の情報を入手し記事にしていることを知って驚きました。

新聞記者の仕事とは」（読売新聞姫路支局　早川保夫様）の講演を聞いて

今までの私の中の新聞記者のイメージは芸能人や政治家の会見とかでしつこいに質問している
どっちかといえばマイナスな印象が強かったのですが、早川さんの体験談を聞いて。
会見とか以外にも災害が起こった直後に現場に行ったり、スポーツ、地域のことなど
幅広い分野に携わる大変な仕事だということを改めて感じました。
お寺の話で新聞でその話題を取り上げることでそのバス停の名前自体が変更された
という話が個人的に1番驚きました。読売新聞のイメージは取ったことが無い
ので、あまり無かったけど、取材したことをまずインターネットで流すといった所が
当たり前の事だけど、少し意外だとも感じました。

「新聞記者の仕事とは」（読売新聞姫路支局　早川保夫様）の講演を聞いて

私は普段、新聞を読むことはありません。そもそも活字を読む
こと自体苦手ですし、世間の情報に関してもそこまで興味が
なかったからです。ですが今日、早川保夫様の講演を聞いて、ほんの
少しだけですが新聞を読んでみようという気持ちになりました。
何故なら、講演のなかで早川様が「新聞は皆が見やすいように
作っている」と述べられていたので、その記者たちの努力が感じられたからです。
これからは、新聞をよく読むように、私自身も努力しようと思います。

新聞記者の仕事とは」（読売新聞姫路支局　早川保夫様）の講演を聞いて

今日の講演を聞いて私は、新聞記事を書くことには、物事に感心を持つことが大切ということに共感した。また、新聞記者という仕事自体が感心でできているとも思った。感心がなければその出来事を探掘りして良い記事を書くなんてことはできないし本当に幅広く、すごい仕事だなと思った。また、記事を作成するのに早ければ1日、数十分でできる、調査などをしていたら数日かかるということを聞き、難しくて、誰にでもできるような仕事じゃないんだなと感じた。私の家では新聞をとっていないし、私は文字を読むのが嫌いだったので新聞を読むということを今まで避けていたけど、新聞には、新聞を作った人たちの色んな思いや意味が詰まっていると知って興味を持ち、読んでみようと思った。

新聞記者の仕事とは」（読売新聞姫路支局　早川保夫様）の講演を聞いて

今回の講演会で最も印象に残ったことは、新聞記者はとても忙しいということです。一日中、取材をしたり記事を書いたり、休む暇もないなと思いました。また、日本に居ながら海外についての記事を書くこともあるということも印象に残りました。

新聞記者の仕事とは」（読売新聞姫路支局　早川保夫様）の講演を聞いて

昔は新聞をとっていたけど、今はとっていないので、今後はネットニュースと学校にある新聞をうまく活用して入試に備えていきたいと思います。新聞をかいている人がいるのは当たり前なのに今まで意識したことがなかったので、新鮮な話でした。1時間かかったり1か月かかったり、内容によって速度が大切なんだなと思いました。見出しでも面白そうな内容とわかる記事がありました。

新聞記者の仕事とは」（読売新聞姫路支局　早川保夫様）の講演を聞いて

早川保さんの話を聞いて、すごいたくさんの色々なジャンルの知識をもっているんだろうなというのが伝わってきました。また、危ない所や色々な県など様々な所でしゅざいをしていてすごいと思いました。それから、しゅざいもすごいと思ったけれど短時間ですごく読みやすいように文をまとめているのもとてもすごいと思いました。今日の話を聞いて新聞の情報はすごく信用できるなと思いました。また、自分も色々な分野の基礎だけでも今のうちに知っておきたいなと思いました。そのために身の周りのことに興味をもつようにしようと思いました。

新聞記者の仕事とは」（読売新聞姫路支局　早川保夫様）の講演を聞いて

新聞記者の仕事は若手の頃は色々な所に飛ばされたり（夜中とかにも）たとえ立場が偉くなっていっても転勤が多くあって忙しいけどやりがいはありそうな仕事だと思いました。特に「法起寺」のように自分の書いた記事が社会に変化を起こした時は、爽快感がすごそうだと思いました。今日のこの話を聞いて、今日聞いた魅力を両親にそのまま伝えて新聞をとることを検討してみようと思いました。

新聞記者の仕事とは」（読売新聞姫路支局　早川保夫様）の講演を聞いて

僕の家は新聞を取っていますが僕は滅多に読まなかったので今日の公演会を聞いてこれを機に読んでみようかなと思いました。今日の話の中で一番記憶に残っているのは藤井棋士の取材の数です。取材というと5,6人くらいの記者がマイクを持って質問するというのを勝手に想像していましたが100～150人にも多い時はなるというのはとても驚きました。今日の公演会では新聞というのは身近なものでありながらもとても奥が深いものだなと感じました。